

いのちとくらしをまもる
防災減災



みんなで始める防災・減災

～国民一人一人ができること～

本冊子の活用方法

本冊子では、特に皆さん一人ひとりに協力・行動頂きたいポイントにマークがついています。



皆さん一人ひとりにご一読頂き、協力・行動が必要なポイントです。



MEMO

メモ欄をご用意しています。適宜ご活用ください。

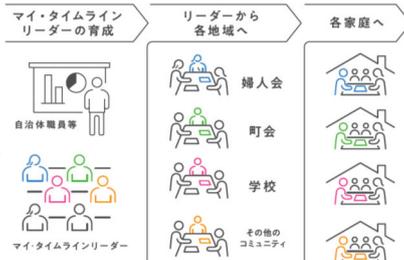
内容の例)

マイ・タイムライン リーダーの普及



マイ・タイムラインは、地域で一体となって取り組むことが大切です。

- 住民のみなさまの中から検討のサポート役となる地域リーダー（マイ・タイムラインリーダー等）を育み、地域の防災力を高めましょう。



マイ・タイムライン リーダー普及イメージ

MEMO

防災・減災が主流となる社会の実現に向けて

～総力戦で挑む防災・減災プロジェクトの推進～

いのちとくらしをまもる
防 災 減 災

近年、気候変動の影響によって自然災害が頻発化・激甚化しています。

私は、昨年9月の国土交通大臣就任直後から、令和元年房総半島台風や令和元年東日本台風の被災地へ足を運び、想像を絶する甚大な被害を目の当たりにしてきました。

今年も、令和2年7月豪雨の被災地で、豪雨の凄まじさを痛感するとともに、新型コロナ禍で被災者の皆様が厳しい状況におられることを伺い、被災地の再生に向けた決意を新たにしました。

こうした状況の中で、国民の皆様の命と暮らしを守るためには、これまでの災害を教訓として、総合的な防災・減災対策、国土強靱化対策が必要であると感じ、「総力戦で挑む防災・減災プロジェクト」を進めることとしました。

この冊子には、本プロジェクトの中で、とりわけ国民の皆様とともに進める防災・減災を、「一人ひとりが今できること」として、具体的に掲載しています。

国、都道府県、市町村、そして企業や国民の皆様。

あらゆる力を結集し、日頃から「防災・減災」を意識し、行動に取り入れていくことが当たり前となる、安全・安心な社会の実現に向け、一緒に取り組みましょう。



令和2年9月
国土交通大臣

赤羽 一嘉



氾濫への警戒を



大切な人のために

災害時の情報収集と避難の呼びかけ

メディアやSNS等を通じた注意喚起

- 大雨特別警報が警報に切り替えられた後でも、これまでに降った雨で河川が増水し、氾濫が発生する場合があります。雨がやんだからといって安心せず、今後の河川の水位上昇の見込みなどの情報を確認しましょう。

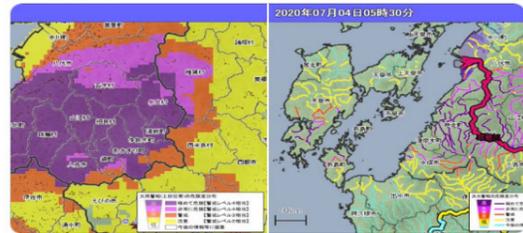
- 河川の水位情報の見込みについては、ウェブサイトやSNSで発信しているほか、記者会見を開催して、気象と河川の専門性を有する職員が連携して解説を行っています。



メディアを通じた河川氾濫への注意喚起



【最大級の警戒を！】04:50に熊本県、鹿児島県に大雨特別警報を発表しました。今後、他の市町村にも発表の可能性がありますが、#特別警報を待つことなく、厳重な警戒をお願いします！対象市町村はこちらで確認。
jma.go.jp/jp/warn/349.ht...
jma.go.jp/jp/warn/352.ht...



SNSによる気象情報の発信

災害時には様々なところからあらゆる情報を集めよう！



合同記者会見にて気象と河川の状況と今後の見込みを解説

MEMO

民間アプリを活用した避難の呼びかけ

- 離れた場所に暮らす高齢者等の家族に危険が差し迫った場合、家族が直接電話をかけて避難行動を呼びかけることが大切です。

- 各種アプリやサービスから登録した地域の災害情報を受け取り、大切な人に電話等で避難を呼びかけましょう。

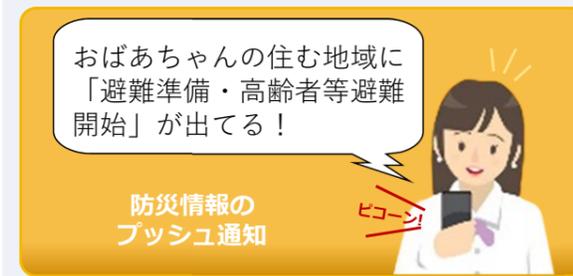


アプリの入手
地域の登録

「逃げなきゃコール」の流れ

離れて暮らす大切な人を見守るため登録しよう！

大切な人に電話等で避難を呼びかけよう！



おばあちゃんの住む地域に「避難準備・高齢者等避難開始」が出てる！

防災情報の
プッシュ通知

おばあちゃん、すぐに避難して！

大切な人に電話等で避難を呼びかけ

わかったわ！

MEMO



津波に備える



安全・安心な避難のための備え

津波に備えた警報等の発信

気象庁は、地震発生後、約3分を目標に津波を予測し、津波による災害のおそれがある場合、津波警報等（大津波警報・津波警報・津波注意報）として発表しています。

海水浴場等においては、津波警報等が聴覚障害者や遊泳中の方などに一層確実に伝わるよう、「津波フラッグ」による情報発信を行っています。海岸で「津波フラッグ」を見かけたら、速やかに避難しましょう。

津波フラッグ
海水浴場等で知らせる

【津波フラッグのデザイン】
津波フラッグ（赤白格子模様の旗）は、国際信号旗の「貴船の進路に危険あり」を意味するU旗と同様のデザインです。U旗は、海外では海からの緊急避難を知らせる旗として多く用いられています。ただし、U旗は、他の国際信号旗と組み合わせることで別の意味になることがあります。

■旗を建物に掲げるなど他の手法でお知らせすることがあります。

津波警報等が発表されたら直ちに避難しよう！



避難場所



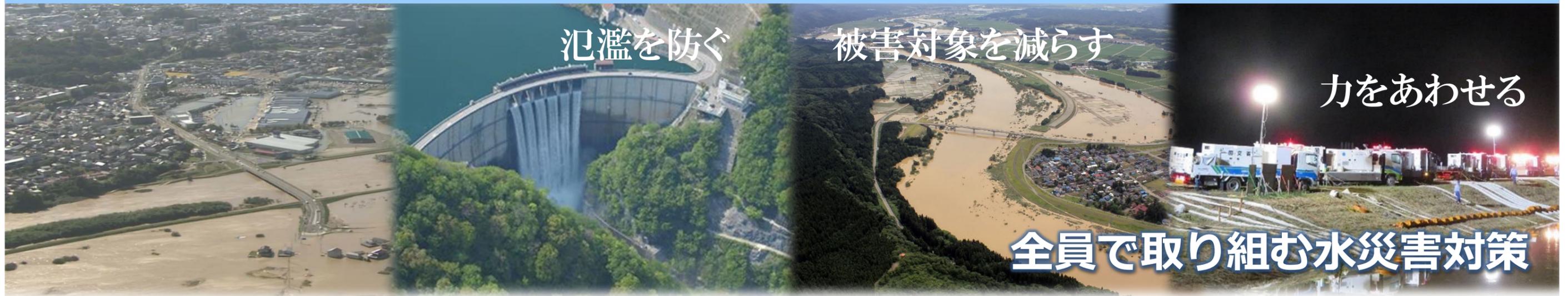
道路高架区間の一時避難場所としての活用

津波や洪水が発生した時、緊急的に道路高架区間や盛土区間へ避難することができるよう、避難階段の設置を進めています。



いざという時の避難場所を確認しておこう！

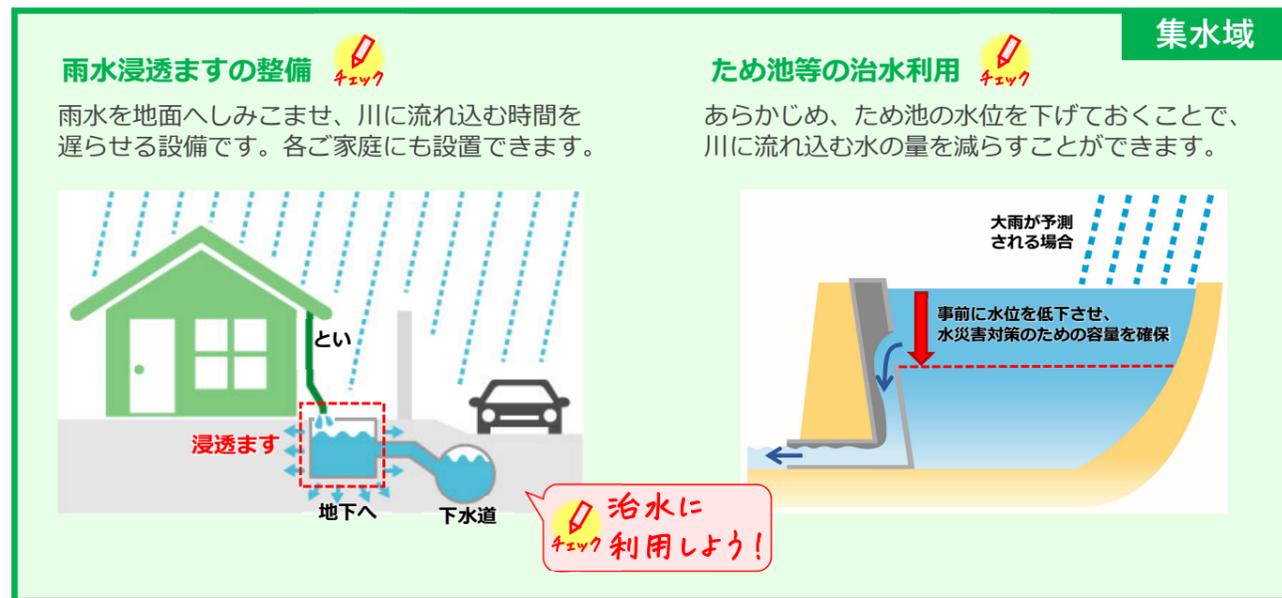




一人ひとりの取組・理解・協力が重要です

- 気候変動による水災害の激甚化に立ち向かうためには、堤防やダムなどの施設はもちろんのこと、**皆さんの身近な施設・設備・土地が持つ防災機能を最大限引き出すことが必要不可欠です。**

一人ひとりの取組・理解・協力が、同じ流域の方々の人命・財産を水災害から守ることにつながります。**同じ流域を一つの運命共同体と考え**、私たちと一緒に水災害対策を前に進めていきましょう。

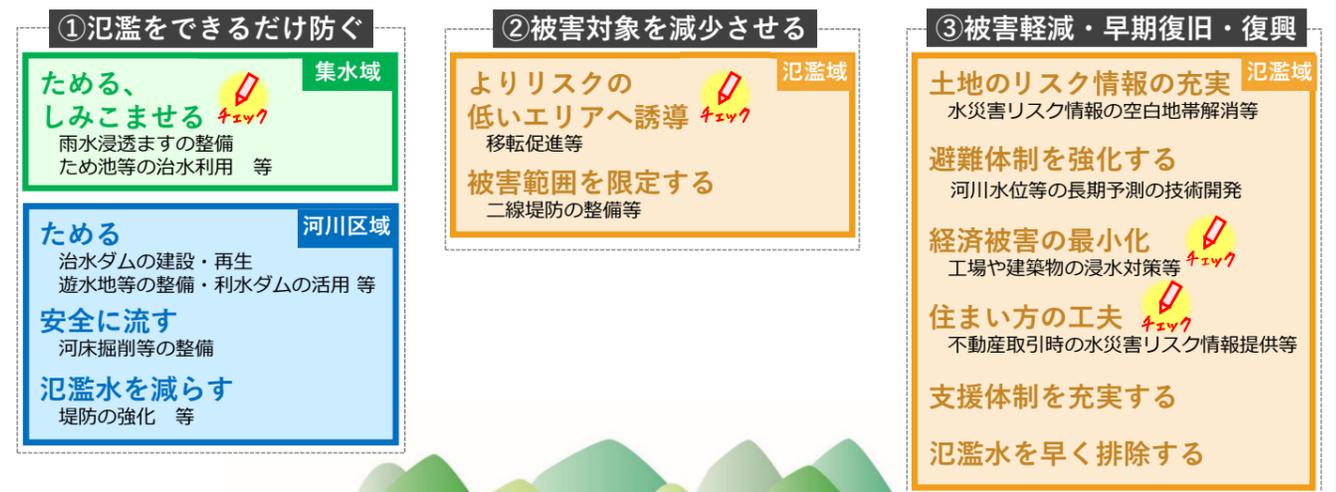


MEMO

流域に関わる関係者全員で水災害に備える

- 「流域治水」とは、堤防整備、ダム建設・再生などの対策をより一層加速するとともに、さらに集水域（雨水が河川に流入するエリア）から氾濫域（河川等の氾濫により浸水が想定されるエリア）にわたる**流域に関わる全員で水災害対策を行う考え方**です。

流域に関わる全員がそれぞれ流域のためにできることに取り組み、激甚化・頻発化する水災害に立ち向かきましょう。



いのちとくらしをまもる
防 災 減 災

総力戦で挑む防災・減災プロジェクト ～いのちとくらしをまもる防災減災～

令和2年9月 発行

 **国土交通省** 総合政策局政策課 / 水管理・国土保全局防災課 / 大臣官房参事官（運輸安全防災）

詳細はwebページからご覧いただけます。

https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/sosei_point_tk_000034.html



(0.0.1)